

平成 30 年度 総合部会研究計画

1 研究主題

自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の創造
－主体的・協働的に取り組む探究的な学習の過程の充実を目指して－

2 研究主題について

(1) 研究主題設定の理由

社会や経済は、急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような時代を生きる子供たちには、自分のよさや可能性を認識し、異なる多様な他者と協働して課題に向かい、自己の生き方を考えていくことが求められている。自己の生き方を考えるとは、社会や自然の一員として、何をどのようにすべきか考えること、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと、そしてこれらのことを生かしながら、自分のよさや可能性に気付き、自分の人生や将来について考えていくことである。

平成 29 年に告示された学習指導要領では、これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するため、すべての教科等の目標及び内容が、(1)知識・技能(2)思考力・判断力・表現力等(3)学びに向かう力・人間性等の三つの柱に再整理された。

総合的な学習の時間においては、その目標及び育成することを旨とする資質・能力が次のように示され、各教科等で育成する資質・能力を実社会・実生活において活用すること、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成することが求められている。

目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(知識・技能)

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(思考力・判断力・表現力等)

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

そこで、平成 30 年度は、目標に示されている、生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指して本主題を設定し、研究を進めていくこととする。

(2) 主体的・協働的に取り組むとは

探究的な学習を充実するためには、課題の解決に主体的・協働的に取り組むことが必要である。

主体的に取り組むとは、自ら設定した課題の解決に向けて、自分事として学習に取り組むことである。よりよい解決のためには、見通しをもって自ら計画を立てて学習に向かうことが重要である。

また、課題の解決に他者と協働的に取り組むことも重要となる。多様な他者と協働して活動を行うことにより、学習活動が発展したり、課題への意識が高まったりする。また、異なる見方があることで、解決への見通しがつかみやすくなる。

大野小学校では、協働的な学習を意図的・計画的に位置付けた実践を行った。その成果として、主体的に学習に取り組み、協働して課題を解決しようとする児童の姿、自分たちの地域のよさを再認識し、地域に積極的に関わろうとする児童の姿があった。

このように、児童が主体的・協働的に学習に取り組む中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係が生まれ、他者と適切に関わることができる。さらに、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力を育成することにもつながる。

(3) 探究的な学習の過程の充実とは

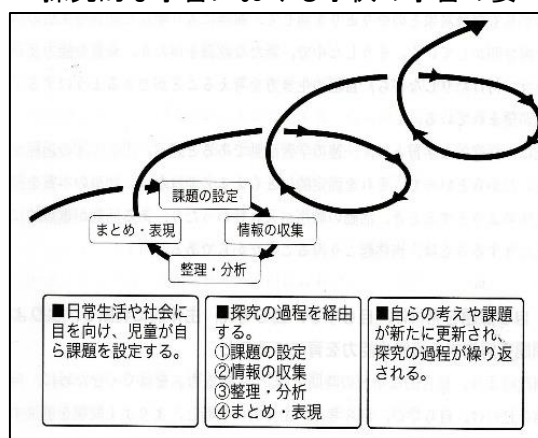
探究的な学習とは、図のように問題解決的な学習が発展的に繰り返されることである。探究的な学習の過程では、「探究的な見方・考え方」を働かせることが必要である。

「探究的な見方・考え方」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方である。児童が「探究的な見方・考え方」を働かせながら学習に取り組むことで、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながるのである。

本年度は、探究的な学習の過程をさらに充実したものとするために、児童がその過程に主体的・協働的に取り組み、目指す資質・能力を養うことができるよう、特に単元計画作成を重視していきたい。そのために、各学校の実態に応じた目標を実現するにふさわしい探究課題を設定することが大切となる。

実社会・実生活に即した探究課題について、探究的な学習の過程を通して学ぶ中で、個別の「知識及び技能」は関連付けられて概念化し、「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結びついて汎用的なものとなり、深い学びを実現することができる。児童

探究的な学習における子供の学習の姿



は多様な情報をもとに、学んだことを自己と結びつけて自分の成長を感じることを通して達成感と自信をもち、自己の生き方を真剣に考えるなど大きく成長するであろう。

3 研究の視点と内容

(1) 目標と内容の設定及び指導計画・単元計画の作成

各学校において、育てたい児童像や資質・能力を明確にした目標及び内容を定めることが大切である。その際に、各学校における教育目標を踏まえることが求められている。目標の実現に向けて指導計画が適切に機能するためには、内容について、探究課題としてどのような対象と関わり、その課題の解決を通して、どのような資質・能力を育成するのかを記述することが必要である。各学校において、カリキュラム・マネジメントを通じて各教科の資質・能力を関連付け、効果的な教育課程を編成する。

①地域や学校、児童の特性を考慮した目標及び内容の設定

- ・各学校における教育目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を示す
- ・日常生活や社会との関わりを重視する
- ・地域や学校の特色、児童の興味・関心に基づく探究課題を設定する

②意図的・計画的・組織的な年間指導計画の作成

- ・資質・能力の視点から、各教科等との関連を明らかにする
- ・児童の学習状況を把握し、計画の見直しを適宜行う
- ・生活科とのつながりや中学校との接続を視野に入れた計画を作成する
- ・児童の学習経験に配慮し、4年間を見通して指導計画を作成する
- ・季節や行事など適切な時期を生かす
- ・外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識する

③児童の実態に即した単元づくり

- ・児童の関心や疑問を生かして単元を構想する
- ・意図した学習を効果的に生み出すために児童の目線で単元を構成する

(2) 探究的・協働的な学習活動

総合的な学習の時間には、対象に直接接触れる体験活動から課題設定を行うことが、そのあとの息の長い探究的な学習活動の原動力となる。その解決のために、異なる（考えをもつ）多様な他者と協働して主体的に学習活動を行うことで、互いの考えを深め、事象に対する認識が深まり、学習活動をさらに探究的な学習へと高めていく。また、協働して学習活動に取り組むことが、児童の探究的な学習を持続させ発展させるとともに、一人一人の児童の考えを深め、自らの学習に対する自信と考えに対する確信をもたせることにもつながる。

①学習過程を探究的にすること

- ・探究の過程（【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】）をスパイラルに行うことで、探究的な学習とする

- ・実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもたせる
 - ・【整理・分析】の過程は、「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「関連付けて考える」「原因や結果から考える」などの「考えるための技法」を意識させて行う
 - ・【まとめ・表現】の過程では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成させ、児童に自分自身の考えや新たな課題を自覚させるようにする
- ②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること
- ・異なる多様な他者と協働して、主体的に学習活動を行う場を設定する
 - ・多様な情報を活用して協働的に学ぶ
- ③考えるための技法の活用
- ・どのような「思考力・判断力・表現力等」を養いたいかということを踏まえつつ児童の実態に応じて活用を図る
 - ・学習の過程において、どのような意図でどのように使用するかを計画的に考えて活用する

(3) 確かな学びを育む指導と評価

児童が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために学習評価の在り方が重要である。そのために、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められている。また、児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、児童自身が学習したことの意義や価値を実感することができるようにすることが大切である。

- ①各学校において育てたい資質・能力の明確化
- ・各学校において定める目標や内容に基づいた資質・能力を明確にし、学校としての評価の観点や評価規準を設定する
 - ・年間や単元など内容や時間のまとまりを見通しながら評価場面や評価方法を工夫し、指導の改善や児童の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かす
- ②長期的、共感的、多面的な評価方法
- ・学習過程や年間を通しての児童の変容や成長を適切に評価する
 - ・児童一人一人が学習を振り返る機会を適切に設け、自分のよい点や進歩の状況に気付くことができるようにする
 - ・多様な評価方法を適切に組み合わせる(表現による評価・観察による評価・制作物による評価・ポートフォリオによる評価など)
 - ・多様な評価者による評価を行う(自己評価や相互評価、協力者等による他者評価など)

【引用参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編」

